

線形独立性と行列式

定理. A を n 次正方行列とすると,

$$\begin{aligned} |A| = 0 &\iff A \text{ の行ベクトルが 1 次従属} \\ &\iff A \text{ の列ベクトルが 1 次従属} \end{aligned}$$

行列式と空間図形

命題.

(1). 空間内の 3 点 $P_i (x_i, y_i, z_i)$ ($i = 1, 2, 3$) を通る平面の式は

$$\begin{vmatrix} x & y & z & 1 \\ x_1 & y_1 & z_1 & 1 \\ x_2 & y_2 & z_2 & 1 \\ x_3 & y_3 & z_3 & 1 \end{vmatrix} = 0$$

である (方程式を満たす (x, y, z) の集合が平面) .

(2). 点 $P_0 (x_0, y_0, z_0)$ を通り, ベクトル $\mathbf{a} = (a_1, a_2, a_3)$, $\mathbf{b} = (b_1, b_2, b_3)$ で貼られる平面 (点 P_0 を始点として \mathbf{a}, \mathbf{b} の線形結合で表される点の集合) の式は,

$$\begin{vmatrix} x - x_0 & y - y_0 & z - z_0 \\ a_1 & a_2 & a_3 \\ b_1 & b_2 & b_3 \end{vmatrix} = 0$$

である .

(3). ベクトル $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix}$, $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{pmatrix}$ に対して, ベクトル

$$\begin{pmatrix} \begin{vmatrix} a_2 & a_3 \\ b_2 & b_3 \end{vmatrix} \\ - \begin{vmatrix} a_1 & a_3 \\ b_1 & b_3 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} a_1 & a_2 \\ b_1 & b_2 \end{vmatrix} \end{pmatrix}$$

は, \mathbf{a}, \mathbf{b} に直交するベクトルである. このベクトルを \mathbf{a}, \mathbf{b} の外積ベクトルと呼び, $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$ と書く.